優秀賞

# 広島県　株式会社 一富士興業

## 「青少年健全育成」事業

# 環境教育とレジャーを融合させ、

ゴミ拾いではその重量を競うが、年々、競争は激化

広島県福山市を中心に、パチンコホール（16店）をはじめ、スーパー銭湯、カラオケスタジオなどを展開する㈱一富士興業。地元密着型のレジャー産業を通じ、楽しさや感動を提供していくことを企業理念に掲げる一方で、地域に根ざす企業市民として、地域貢献活動にも力を入れている。

そのひとつが、福山市内を流れる芦田川を舞台とした「芦田川エコ＆フィッシング大会」。芦田川は、かつてシジミやハゼなどが生息する清流だったが、1960年代後半から汚濁が進み、現在では中国地方の一級河川の中で最も水質が悪い川となっている。川の汚れとともに、河川敷へのゴミの投棄も目立っていた。

水質浄化そのものに取り組むことは一企業として無理があるが、身近な環境悪化に地域社会の目を向けさせ、その改善に一緒に取り組む方法はないかと検討した結果、子どもから大人まで、また釣り人も一般市民も参加でき、芦田川の清掃とアウトドアレジャーをコラボレートした釣り大会というアイディアが生まれてきた。汚れが目立つものの、芦田川はブラックバスなどの釣りのメッカとして知られていたことも背景にあった。

釣りそのものは「エキスパートの部」と「一般の部」に分

一富士興業代表取締役社長
**長鋪毅一郎さん**

一富士興業営業企画室長
**宮川昌紀さん**

# 身近な環境を見直す試み

かれ、釣果の重量を競うが、ユニークなのは「ゴミ拾いの部」があること。これは河川敷に散乱するゴミを拾い集め、その重量で順位を決めるもの。しかも、釣り部門に参加するには、まずゴミ拾いをすることが条件として課せられている。参加者の中には、釣りの経過が思わしくないと、途中からゴミ部門に切り替えて精を出す人もいるとか。

「結局はゴミを捨てる人を減らさないと意味がありませんから、その気づきのきっかけになればいいと思い、2003年にスタートしました。毎年、120名前後の参加者があります。年々、河川敷のゴミが減ってきて、うれしいことですが、最近のゴミ拾い部門は熾烈な競争です。河川敷の清掃に取り組む自治会などの団体やイベントも増えてきて、社会的な波及効果も実感しています」

そう話すのは、環境保全活動に積極的に取り組む長鋪毅一郎社長のもと、社内の社会貢献活動の中心を担う営業企画室長の宮川昌紀さん。今後、この大会に出場した子どもたちの中から、芦田川の水質改善に取り組むような人が出てきたら、すばらしいことではないだろうか。その意味で「エコ&フィッシング大会」は、地元を愛する子どもたちを育てる種まき事業という側面もある。

もうひとつ、一富士興業が地域貢献活動として取り組んでいるのが、「ゆららカップ」という小・中・高校生を対象として夏に開催されているサッカー大会の主催。青少年の健全な心身の育成をめざし、1997年（平成9年）にスタートした。それまで地元では大きな大会が少なく、日頃の練習や実力を競う機会に恵まれなかったサッカー少年たちにとって、格好の目標となっている。

約900名の子どもたちが参加し、4日間にわたって炎天下に熱戦を繰り広げているが、父兄なども多数詰めかけて応援や大会運営に協力している。一富士興業からはスーパーバイザーのほか、大会進行役として社員がボランティアで参加している。

「両事業あわせて20名の社員がイベント運営のスタッフとして参加していますが、業務命令ではなく、自発的意志によっています。準備の会議も当日の行動も、すべて自主的です。また幹部社員も空いた時間を見つけては、自発的に参加しています。いつもとは違った汗をかいて気持ちいいという反応が多いですね」と、社員の積極的な参加状況について話す宮川さん。両事業とも、今では福山市、福山市教育委員会などが後援団体となっているが、あくまでも一富士興業が実施主体として、その運営に責任を負うという姿勢を明確化し、資金面のみならず、スタッフとして積極的に参加している。やはり、どこかに運営を任せきりにして、資金面だけの援助ということでは、持続的な社会貢献は難しいといえる。

河川敷や川岸から集められたゴミの山

2003年から続く大会は知名度も向上してきた

芦田川エコ&フィッシング大会の様子